

読者の声



健康長寿に日々努力

北区アーバンラフレ志賀寿会
山ノ内登志江

新型コロナウイルスという言葉を聞いて早や1年半になります。外出自粛、マスク着用の窮屈な暮らしの中で皆さん頑張っておられますが、なかなか見通しも立たない昨今、何か楽しみをと思い、夏に向け家庭菜園を始め、日々楽しんでいきます。

種まきから始め、芽が出て成長していく過程は、とてもシンプルですが、心が癒されます。また、四季の花々を楽しみ、超高齢社会を健康に過ごせるよう努めています。

新型コロナウイルスでたくさんの方がお亡くなりになりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

しっかりマスクをつけ、人混みを避け、尊い命は自分で守り、超高齢社会を笑顔で送れますよう、努力しています。楽しい日が送れるように人生100歳を目指して頑張っています。

3月22日に、おかげさまで病気ができず健康で85歳を迎えることができました。今が青春です。楽しい長寿生活が送れますよう一日一日を大切に過ごしてまいります。

声

熱田区あすなる老人クラブ
伊東 正子

一通りの家事をすませホッとしたいもの丸テーブルから中庭に目をやると若芽が二葉だった庭木、今や左右全体に四月の陽さしに向かって生き生きと彩っている。

そこで朝から「チョコパイ」を一つ。おいしいので、もう一つばかり。コロナのせいにしてはいけない豊かさのなせるわざと自分に問うてみる。平穩な幸せの中に感謝。チョコ好きなお一人様より。



少年とツツジ(躑躅)

名東区よもぎクラブ
岩佐 良男

「ガンバッテね」と植木市の手伝いをしてる少年に声をかけた。少年はうつむき加減で「買ってこれない頑張れない」とつぶやいた。「そりゃそうだよなあ」と言って帰ろうとしたが、少年のつぶやきが気になり、それじゃあ何か買つよと少年に言つと、ニッコリ微笑み顔を上げた。選んだ末、小さな株のツツジ二株を買った。庭に植えたこの二株のツツジが大きな株になり、毎年目に染みる鮮やかな真紅の花、ピンクの花を

テーマ投稿 7月号のテーマ

「コロナ禍でのつながり」

コロナ禍でのつながり

北区第一清寿クラブ
舟橋 裕子

コロナ禍で、三密を避けるということになり、20年続いて来たグループを解散することになった。女性のグループで、社会や生活、生き方等を学び合うという集いがあった。時には茶菓を楽しんだり、食事に出かけたりした。常時20名ほどの出席があり、私は世話をする役目であった。やめた当座は、ほっとして気楽さを味わった。しばらくして、心が内向きになり、考え方が消極的になってきた。自由な時間が多くなって、グループの皆さんのことがしきりと想起され、よく続けて来てくださったなあと思いを持った。

「暮らしの中で楽しい時」を話題にした時、この会に来るのが楽しいと、多くの人が言ってくれた。多岐の心が宝となっている。年賀状や手紙をくださる方もあ

それぞれ咲かせ、少年のつぶやきのおかげで春爛漫庭を飾ってくれている。少年が思っていることを言葉で伝えてくれた。私も言葉だけの励みだけでなく、少年のつぶやきにハッと気づき、行動に移したことが恵みとなり、毎年庭の主役となって楽しませてくれている。花房を見るたびに少年のことが思い

る。支え・助けてくださったあの人の。あらためて人柄を感じたり、今のお暮らしを想像したりである。これからも、想うことでつながりは続いていくと思う。



コロナ禍でのつながり

西区第一大木クラブ
加藤 義勝

コロナ禍でメンバーと会う機会が減った。長年続けていたマジック活動、新ネタの勉強会、施設や老人会への慰問、「わあ...なぜ...すごい...」と称賛の拍手に感動。また楽しみにしていたカラオケ同好会も中止。新曲を紹介され次回までに練習、みんなの前で発表。これらがなくなったことは残念。半面楽しいこともあった。現在

浮かび、あれから10年経ったので、たくましい青年になっているだろうと思っている。



読者の声

コロナに負けない体力づくりに励んでいます。(西区M)

クラブ通信が年4回の発行になり、楽しみが増えました。コロナの感染防止対策を徹底しつつ、紙面の上だけでも明るく過ごしたいです。(港区N)

老人クラブのお役目を退き、お世話になる身となり、役立てることに協力して楽しい老人クラブなることを祈っています。(緑区T)

1年前の4月に入会させていただきました。なかなか活動に参加できなくて申し訳なく思っています。先輩の方々が楽しそうに元気にグラウンド・ゴルフをされている様子を見せていただきました。今後、人生の中で皆さまと楽しく活動できればいいと思います。皆さまがととてもやさしいので、うれしいです。(守山区H)

老人クラブの人たちのエネルギーをいただいて、明るく元気に楽しく参加したいです。(名東区S)

継続して楽しんでいるグラウンドゴルフが10周年を迎え、ケース入りで「鶴と亀」の折り紙をみんなと共に我を忘れて会員分33個を作り終えたこと。それによりメンバーとの親近感をより深めた。最近思っていることは、新しい出会いを求めコロナ前とは別世界、自然相手の写真同好会への加入。デジカメで十分。メンバーと一緒に市内四季折々花の撮影。作品をメンバーで研鑽すること。コロナ禍で時間の過ごし方や関わる人も変わってくるが、人生の最終コーナーを有意義に過ごしたいものです。

次号テーマ

再発見

「読者のページ」ではテーマも設けています。次号のテーマは「再発見」です。これまで固定観念にとらわれていたり、深く考えたこともなかったり、興味がなく見過ごしてきたのに、ふとしたきっかけで「別の見え方」があることに気が付いたことはありませんか？ そんな再発見をしたときの話を教えてください。

